

桑で障がい者の雇用確保を！ (NPO法人エリスン)

＜法人の概要＞ 所在地：長野県上田市
設 立：平成 21 年 9 月
資本金：0 万円 売上高：12,500 万円（平成 24 年）
（うち農業及び農業関連事業：92 万円）
役 員：4 名（うち農作業従事 1 名）
従業員数：常時雇用者 27 名（うち農業従事者 6 名）、臨時雇用者 0 名
経営面積：6.0ha 営農作物：桑
農業開始時期：平成 23 年 12 月



舞田館（障がい者福祉施設）



桑 畑

＜農業参入に至った経緯・動機＞

- ・平成 21 年に障がい者支援のために NPO 法人を設立した際に、障がい者の就業の場として農業に着目した。
- ・地元の丸子実業高校農業科の先生や、信州大学繊維学部教授から、上田地域ではかつて養蚕が盛んで桑の木が到る所で植栽されていた話を聞き、また近年の健康志向から桑の需要が徐々に増加していることから桑に特化して農業参入することに決めた。
- ・また、桑の実実は非常に収穫に手間がかかるため、敬遠されがちであるが、エリスンが運営する舞田館（障がい福祉事業所）の利用者（約 60 名の障がい者）の労力を活用できると考えた。

＜農業参入することを決めてから営農開始まで＞

- ・最初は代表個人名義で農地を借りて、障がい者に農作業を手伝ってもらっていたが、平成 21 年の農地法等の改正後、法人として農業に参入した。
- ・農作業に必要な機械はレンタルや中古機械の購入により、出来るだけコストを掛けずに自己資金で準備した。
- ・品種は一般的に養蚕のために植栽されている在来種の一ノ瀬をはじめ、実がより多く取れるアメリカンマルベリーや、ララベリーを検討した。
- ・栽培技術については、信州大学繊維学部より指導いただいた。

<営農開始から現在まで>

- ・経営面積の拡大に当たっては、上田市農業支援センターの専任推進員の方の親身な対応で耕作放棄地の紹介を順次受け、また、借り受けた耕作放棄地の復旧には、国の耕作放棄地再生利用緊急対策交付金や、上田市の遊休荒廃農地活性化対策事業を活用した。
- ・桑の植栽から、収穫まではおおむね 4 年程度かかるため、経営面積は徐々に増加しているが、桑の実等の収穫量は未だ少量となっている。
- ・経費削減のため、信州大学で接ぎ木・挿し木を勉強し、実行に移している。
- ・自社農園での農作業だけでは年間を通じては労働力が余るため、他の農家の農作業の請負等を行っている（観光農園のコスモス栽培等）。
- ・桑の実からジャム・フルーツソース等、桑葉からは桑茶・パウダー等を委託製造し、地元スーパー（特産物コーナー）、道の駅、上田市の施設等で販売している。

<今後の農業経営の展開方向>

- ・鳥獣被害が多いため、今後は電気柵やネット等の設置を行い対策を取っていきたい。
- ・加工品の生産・販売拠点施設を自前で整備し、6 次化事業の積極的な展開により、より多くの障がい者雇用の場を確保していきたい。
- ・別所温泉の旅館組合と連携し、桑の実狩りの観光農園や観光施設を作り、信州大学とも連携し、お土産になる紙製品、木工品の開発を企画していきたい。

<今後農業に参入しようとしている法人へのアドバイス>

- ・農業だけで完結するのではなく、福祉、行政、研究・教育機関と連携していくことで、相乗効果が上げられると考える。



マルベリージャム



桑茶